

職業について学んでいる成果を発表する生徒ら
＝14日、福井市の福井大附属義務教育学校



「ニーズ対応が大切」

福井大附属生 職業観を発表

3年かけて「職業」について学んでいる福井大附属義務教育学校の8年生(中学2年生)が14日、福井青年会議所OBらでつくる「ふくいのかい」の担い手づくりプロジェクトのメンバーと意見交換した。県内企業の従業員のインタビューなどを進めている生徒は、「時代の変化やニーズに対応することが必要」「コミュニケーション能力が大事」といった職業観を発表し

た。同校は中学1年に当たる7年生時に卒業まで3年かけて学ぶテーマを決め、週2回の総合学習で追究する「学年プロジェクト」に取り組んでいる。8年生119人は、キャリア教育を行っている同団体の協力を得て、職業をテーマに「機械化」「歴史」「伝統産業」「グローバル」の四つの観点で学んでいる。福井市の同校体育館で行わ

れた意見交換で、生徒たちは「機械化が進む中、人間にしかできないことを考えることが大事」などと指摘した。同団体の後藤正邦会長らは「競争」や『使命』といったキーワードも取り入れて」などと助言した。学年プロジェクトの実行委員長、金原成秀さん(13)は「実際に働いている人の話を聞くことで、いろんな視点から職業をみる事ができた。みんなで試行錯誤してさらに学びを深めたい」と話していた。(小林真也)